

## 平成 29 年度 専門看護コース 研修企画書

専門分野	感染管理		
担当	感染管理認定看護師：河村 ひとみ		
目的	医療関連感染の予防・管理について正しく理解し、感染対策の実践と推進ができる。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染管理の基本を説明できる。</li> <li>2. 職業感染防止の必要性を説明できる。</li> <li>3. 病院感染で問題となる微生物に関する基本的事項と感染対策について説明できる。</li> <li>4. 洗浄・消毒・滅菌について説明できる。</li> <li>5. ファシリティーマネジメントについて説明できる。</li> <li>6. 医療処置関連感染防止について説明できる。 (血管内留置カテーテル関連感染、人工呼吸器関連肺炎、手術部位感染、膀胱留置カテーテル関連感染)</li> <li>7. 感染症発生時の対応について説明できる。</li> <li>8. サーベイランスが説明できる。</li> <li>9. 施設（部署）の問題を状況に適した方法で解決するという意思表示をすることができる。</li> </ol>		
対象者	部署内で役割モデルとなり感染対策の実践と推進ができる者又は、実務経験年数5年以上で、今後部署内で役割モデルとなり感染対策の実践と推進に意欲がある者		
人数	院内 4～5 名程度 院外 4～5 名程度		
研修時間	第1回<6月13日(火)>18:00～19:00 第2回<7月11日(火)>18:00～19:00 第3回<8月8日(火)>18:00～19:00 第4回<9月12日(火)>18:00～19:00 第5回<10月10日(火)>18:00～19:00 第6回<11月14日(火)>18:00～19:00 第7回<12月12日(火)>18:00～19:00		
内容	テーマ	具体的な内容	使用物品
	第1回 (講義) 第2回 (講義)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染管理の基本               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 標準予防策                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・手指衛生</li> <li>・感染経路と感染経路別予防策</li> <li>・個人防護具</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>	パワーポイント 資料 筆記用具
	第3回 (講義)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職業感染防止                針刺し・切創・皮膚・粘膜曝露予防策、結核、流行性ウイルス感染症</li> <li>2. 病院感染で問題となる微生物</li> </ol>	パワーポイント 資料 筆記用具
	第4回 (講義)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洗浄・消毒・滅菌</li> <li>2. ファシリティーマネジメント               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) リネン管理</li> <li>2) 清掃</li> <li>3) 水・空調</li> </ol> </li> <li>3. 感染性廃棄物</li> </ol>	パワーポイント 資料 筆記用具
	第5回 (講義)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療処置関連感染防止対策               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 血管内留置カテーテル関連感染</li> <li>2) 人工呼吸器関連肺炎</li> <li>3) 手術部位感染</li> <li>4) 膀胱留置カテーテル関連感染</li> </ol> </li> </ol>	パワーポイント 資料 筆記用具

	第6回 (講義・試験)	1. 試験 2. ICT活動の実際 1) 院内ラウンド 2) 職員に対する教育指導	パワーポイント 資料 筆記用具
	第7回 (講義)	1. 感染症発生時の対応 2. サーベイランスの基本	パワーポイント 資料 筆記用具
合格基準	1. 全講義を受講する 2. 終了試験 80点以上※終了試験は全課程を受講した者のみ受けることができる ※80点以下の場合、不正解の項目について講義資料などを使って、第7回講義までに修正したものを提出する		
その他	1. 全課程修了者には修了証を授与する 2. 内容の評価については、最終日にアンケートを行い評価する 3. (院内) 自部署の課題について実践可能な具体的な対策を立案し提出、次年度に取り組む 対策実行については適宜、相談に応じる		
参考図書 資料	1) 満田俊宏訳・著. 隔離予防策のための CDC ガイドライン. 東京: ヴァンメディカル; 2012 2) 矢野邦夫, 堀井俊伸編. 感染制御学. 東京: 文光堂; 2015 3) 矢野邦夫, 矢野流! 感染予防策の考え方ー知識を現場に活かす思考のヒント. 愛知: リーダムハウス; 2015 4) 下間正隆, 小野保, 近藤大志, 澤田真嗣. イラストみんなの感染対策. 東京: 照林社; 2016 5) 矢野邦夫. 見える! わかる!! 病原体はココにいます. 東京: ヴァンメディカル; 2015 6) 矢野邦夫. 感染制御の授業ー30日間基本マスターー. 東京: ヴァンメディカル; 2012 7) 一般社団法人 日本感染管理ネットワーク. 感染対策ズバツと問題解決ベストアンサー 171. 大阪: メディカ出版; 2011 8) 鍋谷佳子, 矢野邦夫. 感染対策素朴なギモン解決メソッド Q&A. 大阪: メディカ出版; 2016 9) 森兼啓太訳, 小林寛伊監訳. 改訂 5 版サーベイランスのための CDC ガイドライン NHSN マニュアル (2011 年版) より. 大阪: メディカ出版; 2014 10) 藤田烈編. リスクアセスメント・データ分析・フィードバックもバッチリ! 感染対策のためのサーベイランスまるごとサポートブック. 大阪: メディカ出版; 2015 11) 市川高夫訳. 手術部位感染予防 S S I 防止ガイドライン <a href="http://hica.jp/reference/cdcssi.pdf">hica.jp/reference/cdcssi.pdf</a> 2016 年 4 月 27 日閲覧		

平成 29 年 1 月 24 日作成